

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 230 号 2017. 6. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

感動の輪！東中野頒布会

6月18日(日)、東中野の頒布会に行きました。早くもナスやズッキーニ、枝豆などの夏野菜が出ていて、あれもこれも買いたいと思いながら、いろいろ試食もいただきました。インゲンも色鮮やかで甘みがあり、枝豆の濃い味わいにびっくりしました。自然農法の土 30年という畑で育ったニンジンも香りが強く、マニアックなファンがいるそうです。

今回の食べ比べコーナーは、「お米」でした。慣行農法、有機栽培、自然農法のご飯を食べ比べ、自然農法が一番もちもち感があると思いましたが、炊きたてのご飯はどれもおいしく、はっきりとした違いは分かりませんでした。スタッフによると、大人より子供のほうが違いを分かるらしく、「自然のがおいしい！」と言うそうです。米のとぎ汁の匂いも比べてみました。慣行農法は何の匂いもしなくて、有機栽培と自然農法はかすかに乳酸菌飲料のような匂いがしました。これは発酵が始まっているからだそうです。もう少し時間がたったら、もっと匂いに違いが出てくるのではないかと思います。さらに、前日に炊いて冷蔵庫で保存した冷ご飯も食べてみました。慣行農法と有機栽培は完全にボソボソで味もないですが、自然農法は柔らかさがありました。市販のおにぎりなどは乾燥してボソボソにならないよう、油でコーティングし

ているそうです。

この日のお昼は、もちろん自然米のおにぎりをいただきました。今回は味噌汁ではなく、塩糶を使った野菜スープを販売していました。自然農法の野菜がたくさん入っていて、とてもおいしかったです。

また、赤羽の「ほっと縁市」でチラシを渡したお客さんが来られ、試食のニンジンやおにぎりのおいしさに感動して、いろいろと質問していました。どんどん感動の輪が広がっていくといいなと思いました。

(編集部：田村)



できるだけ自然農法の毎日

埼玉県 早矢仕まどか

自然農法の食によって、難病を良くしていただいた母の影響で、独身時代から食には気を使っていました。結婚後も日常の食事を大切に考えて暮らしていきたいと思い、自然農法のお米、お茶、お野菜などを取り入れた食事を心がけていました。食には特に関心のない主人でしたが、コンビニのお惣菜を並べられるよりは、こだわった食事を考えてくれるほうがいい…という程度の理解で、私の考えに賛同してくれていました。今までは仕事先でペットボトルのお茶などを飲んでいましたが、自然農法のお茶をポットに入れて持っていくようになりました。

今年の年末年始は、主人が熱を出して食欲が全くありませんでしたが、自然卵は食べることで済んだので、急いでまた自然卵を買って帰りました。母が、長年服用した薬の副作用で具合が悪くなってしまったときに、山本さんの卵をいくつかゆでて、少しずつ食べていたことを思い出しました。私は具合の悪いときに、ゆで卵なんて食べにくいのでは、と思ったのですが、母は「これは食べられるのよ」と言っていました。自然卵はすごいなと思いました。

またつい先日、義母から緑茶を頂いたので、自然農法ではないけど、せっかくだから…と思い、主人に出したところ、一口飲んですぐに、「コレ、いつものと違うでしょ？」と言われました。正直、自然農法



の食べものの良さを、主人はあまり分からないのではないかと感じていましたが、毎日できるだけ自然農法の食を心掛けているうちに、違いが分かるようになるなんて、まったく理屈や説明はいらない、と思いました。

できることを少しずつでも…と思い、3年前から、父と共同で市民農園を申し込み、家庭菜園に取り組んでいます。最初、父は「俺は肥料は使うからな」と言っていたのですが、私が「肥料の入った野菜なら、スーパーでも売っているじゃない。無施肥無農薬の野菜が食べたいんだよ」と言ったら、父も賛同してくれました。今年は引っ越してしまったので、場所が遠くなりましたが、サツマイモを植えて、成長を見守っています。収穫が楽しみです。

各地の稲作圃場の様子！

自然農法は分かりやすい。無施肥無農薬で良いですからね。しかし、自然は難しいですね。今年も季節が来て、各地稲作生産者は、種の浸水、種まき、育苗、そして田植え、除草と、予定がハッキリと決められるといいのですが…、今年は何だか涼しい感じがします。皆さん、思い通りにスケジュールがたてられない様子です。(東日本の話ですが)、苗が大きくならないという声を聞き、私は祈るのみでした。

6月8日、9日、長野の堀さんの田んぼで、田植え機に2日間乗せていただきました。堀さんは早くて上手に植えるところ、私が行くと植えるラインが揺れるのです。心の動揺と連鎖しているかのようです。育苗もそうですが、田植えしたそのままが、1年間付き合うことになるので、それはそれは重要な作業でした。堀さん流田植えを、色々優しく、時には厳しく教えていただきました。ただただ感謝で、どうか良い収穫を祈らずにはられません。うまくできなかった所を、少しでも補植して補いたいところです。

6月中旬までに、千葉の熊澤君、栃木の五十嵐さん、宮城の菅原さん、福井の黒田さんまで田植え終了の連絡を取れています。マット苗式の皆さんです。(育苗期間の違いは品種であったり、地域であったりもします)。そして、ポット苗式の方たちは、田植え真っ最中と、これからの方が石川、福井、兵庫、熊本です。新潟の数藤さんは終わったようです。まだまだ手伝えるところあれば、駆け付けて応援したい気持ちでいっぱいです。

今年も、きっと素晴らしい稲の生長を見せてくれることでしょう。体験学習として、希望者と除草援農へ共に行きたいと思えます。希望者は声をかけてください。夏には、学生会体験学習も予定されていて、毎年堀さんの稲から子供たちが色々なことを感じとっていき、楽しみです。まだ植えたばかりですが、夢が先にふくらんでしまいます。

毎年同じでない稲作、2017年、生産者は全身全霊で無施肥無農薬栽培に取り組み、秋の稔りの先の、消費者の喜びを心に描いてがんばっています。そんな生産者の、日に焼けた横顔がとってもかっこいいです。(自然農法普及員：野中)



長野の堀さんの田んぼ



福井の黒田さんの田んぼ

お知らせ

★ 自然農法頒布会 7月9日(日) 鎌ヶ谷会場 11:00～ 売り切れ次第終了

施肥無農薬栽培物の販売予定

7月3日 於：伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。

東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- 市川生産グループ：新茶、ほうじ茶(ミコックも有り)、ほうじ茶ティーバック
- 長柄山自然農園：卵、燻製卵、ひき肉 ● きじま平自然農産：甘納豆、米粉、納豆
- 菜園金野：大根、人参、ナス、ピーマン、玉ねぎ、ジャガイモ、トマト、キュウリ
- 中島農園：ニンニク、ブラム、ブルーベリー、キュウリ、ジャガイモ、大根
- ジョリフィーユ：いちごのロールケーキ、みかんジュースゼリー、焼き菓子 他

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX：03-3369-3324 e-mail：naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。http://www.torek.jp